

学校評価について 考察

【教職員アンケートから】

- ・学校教育目標・学校経営については、肯定率がとても高く目標を達成している。特に、「和を持ってさらに前進する職員集団 チーム北東小」「やる気 げん気 ほん気」をスローガンとして職員はもとより、児童にも浸透している。校外学習などの出発式で児童に、「3つの気」と語りかけると「やる気 げん気 ほん気」と自然に返ってくるまでになっている。学習指導については、児童の意欲を高めるための手立てとして、学習過程の明示と振り返り、ホワイトボードの活用、ICTの活用が進み、今年度は、韮崎市教育員会指定の公開発表会を実施して多方面から高い評価を得ることができた。
- ・生徒指導については、学校全体で調和のとれた活動により、保護者・地域・関係機関との連携を図りながら児童とのコミュニケーションを重視した、生徒指導の体制を築くことにより児童との信頼関係を高めている。特に、運動に親しむ機会として「たかの子チャレンジ」タイムを設け、フラフープ・竹馬・一輪車・森の的あてゴルフなどの遊びを通した活動に職員も充実感を持っている。課題としてあいさつ、スリッパ、名札、無言清掃などへは継続して取り組んでいく。
- ・地域との連携、学校の特色については、学校としてブログやメール配信、学校便り、学年・学級便りの発行など積極的な情報発信ができた。また、地域の人材や施設など教育資源を生かした指導にも充実感を持っている。体力づくり、英語・外国語活動、家庭学習など児童の実態に合わせた指導が効果をあげている。

【保護者アンケートから】

- ・全体的に昨年度と同様に高い評価となっている。
- ・100%近い保護者が、信頼される学校づくりに取り組んでいると評価している。
- ・学校の教育活動については90%を超える保護者が、「豊かな心をもつ子どもの育成」「健康で丈夫な体」「ふるさとを愛する子どもの育成」について肯定的な評価をしている。
- ・環境整備と安全確保では「施設、設備、遊具等安全な教育環境」「子どもの安全に配慮」について100%に近い保護者が評価している。
- ・学習指導と生活指導では、すべての項目において昨年度同様に高い評価である。個に応じた指導においては肯定率が82%、「基礎学力が身に付く工夫」については肯定率が82%、「こどもの学習習慣の定着」は肯定率が82%、「基本的生活習慣」は肯定率が89%を示しているが、今後さらに、努力して、改善を図りたい。
- ・学校での生活に関して「命の大切さ、思いやり、ルールを守る指導」について92%と昨年度より高い評価となっている。
- ・学校と地域、家庭では「情報提供」「計画的な行事」について、97%の保護者が肯定的な評価をしている。また、「子どもの悩みや保護者の願いなどの相談」については90%近い保護者が評価しているが、さらにきめ細かい対応をして、信頼される学校づくりに努めていきたい。

【児童アンケートから】

○全体的に昨年に比べて、良い結果になっている。

1 あなたにとって学校は楽しいところですか。

93%の児童が「楽しい」「まあ楽しい」と肯定的である。本校の知・徳・体・ふるさとを愛する子ども、バランスのとれた教育活動の成果といえる。少数ではあるが否定的な児童に対して、自己有用感を持たせる指導や機会を継続する。

1 [学校での学習に関して]

今年度の校内研究会の成果が現れた結果となっている。研究テーマ「自ら学び、考え、表現できる児童の育成～伝えあい、学びあう授業づくり～」のもとに一人一人の職員が質の高い授業実践をした成果である。わかる授業、楽しい授業づくりのための北東小スタンダード（学習過程の工夫、ノート指導、ホワイトボードやICTの効果的な活用など）が定着してきている。このことが児童のやる気に反映されている。今後も、指導目標を明確にした実践の継続をしていく。

2 [家での学習に関して]

荏州市の家庭学習～わが家の取り組み～により学校と家庭が連携し、児童および保護者に主体的に取り組んでいただけるようにシートを活用してきた。学校での授業の復習を中心にした学習内容であり、家庭学習の方法の理解が進んだことにより宿題への意欲が高まり、よい結果となっている。一方で学習時間の習慣化には課題がある。県の改善八箇条・八のつく日の振り返りも啓発していく。

3 [学校での生活に関して]

全体としてきまりや基本的な生活習慣について高い割合で良い方向にある。児童へのきめ細かな指導の成果といえる。授業での友だちとのよい関わりが生活にも良い影響を及ぼしている。図書館指導や給食指導も行き届いている。無言清掃については、心を磨く時間のような意識を高めていくことも必要である。学級活動や道徳などを通じて、心を育てることに心がけていく。

4 [家での生活に関して]

あいさつについては、児童会・生活委員会での今年度のような工夫した取り組みが効果的であり、継続していくことが望ましい。読書の時間の増加は、日常の取り組みの成果といえる。家庭学習の時間の習慣化については、テレビやゲームに向かう時間ともあわせ、家庭と連携していく必要がある。